

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	消防体制強化整備事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	危機管理部	課等名	防災交通課		包含する細々目	1	9	1	3	11	1	25,500
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり					1	9	1	3	11	2	27,050
施策	41 災害対策の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	13	年度～	年度	第9次消防力整備計画						
						関連計画条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	消防車両 消防水利	更新を必要とする消防車両台数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			4	28			
		新設計画貯水トン数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			40	400			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	想定する災害あるいはそれ以上の災害に備える体制を整え、機関の適正運用及び消防水利の整備、増強を計る	車両の更新 年度更新台数÷計画台数(%)	18目標	14	最終目標	100	22
			18実績	14	19目標	36	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
		貯水の増設 年間トン数÷計画トン数(%)	18目標	10	最終目標	100	
18実績			10	19目標	55	↑	
23目標			100	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	第9次消防力整備計画による、車両の更新及び防火貯水槽の整備事業を行うことで、消防力の維持増強を計る	消防自動車等の整備 消防ポンプ自動車1台(竜丘分団) 小型動力ポンプ付積載車(柿野沢、北方、切石上)	更新する消防自動車 設置された貯水槽	4台 40トン
		防火貯水槽の整備 耐震性貯水槽40t(毛呂窪地区)		
	18年度の実績			
	19年度計画	消防自動車等の整備 消防指揮本部車 小型動力ポンプ付積載車(丸山、駄科、一色、尾の島) 小型動力ポンプ付搬送車(上村)	更新する消防自動車 設置する貯水槽	6台 180トン
		耐震性貯水槽の整備 100t(JA竜丘内)、40t(虎岩、川路)		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		11,811
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	27,000	36,600
	その他	2,500	
	一般財源	6,100	4,139
事業費計(A)	35,600	52,550	
人件費	正規職員所要時間	18年度 800	19年度 1,200
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	2,861	4,291
	トータルコストA+B	38,461	56,841

特定財源内訳や補足事項	消防防災施設整備費補助金1/2(国庫)、消防防災施設0.9(貯水起債)、防災対策事業(ポンプ自動車・積載・搬送車0.9、貯水起債0.75) 移転補償費
-------------	---

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	災害や火災の被害を軽減する	市民が災害に備えている割合	現状値	40.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
	火災発生件数		現状値	51	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
5年ごとに消防力整備計画を策定し、計画的に消防車の維持と強化並びに向上を目的とし、古くなった消防自動車(消防ポンプ自動車、小形動力ポンプ付き積載車・搬送車)を、効率よく計画的に更新を図ることとした。また、防火貯水槽は安全な街づくりの一環として、消防力整備計画で計画的な設置を行う中、地震強化地域に指定された昭和53年からは、耐震性貯水槽も計画的に設置。	機関の更新を小形動力ポンプ付き積載車・搬送車がバラバラの更新であったのを、統一したことにより更新がスムーズに行われるようになった。貯水槽について、充足率は改善されているが街区により整備率に差がある。国の基準(20t貯水含まず)では59.09%だが、20t換算した場合の整備率は88.84%になる。 消防自動車等消防団関係の補助メニューが平成18年度より廃止となり、消防自動車も単独事業で行うこととなった。	消防委員会より、消防車両は重要設備につき国庫補助が不採択となった場合においても配備すべきもの、計画的な整備を求める。貯水槽は、東海沖地震が予想される中で地震に対する防災意識が高まり、設置要望がある。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がない (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	計画に基づき行うもので経常的な事業との指摘あり
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	